



「我が事として取り組む姿勢」

桜井信一先生は、昭和11年5月、鶴見教会副会長桜井源吾先生が川崎教会で布教中に、川崎の地でお生まれになりました。昭和13年に鶴見教会に戻られた後、鶴見教会で長男の一人息子、跡取りとしてお育ちになられ、昭和36年青山学院大学を卒業後、同年5月に金光学院の特科に入学、翌年に卒業され教師を拝命されました。当時若手の先生が少なく、信一先生はあちこちの教会で賛者の御用に呼ばれて行き、おかげで顔が広くなったそうです。

Q (昔の鶴見教会の記念冊子の写真を見ながら) この大きな教会の看板が設置されている所は、鶴見駅の駅前と真ん中ではないですか？

信一先生(以下…信)…そうですね、これは教会会堂を立て直して、金光ビルとして落成した時のものですね。今の時代では考え

られないでしょうが、昭和58年の当時も考えられないことでした。

Q 誰が発案されたのですか？

信…この看板や、道路沿いの旗、アドバルーンなどは、源吾先生が主に進めていました。当時は、どんどん進める源吾先生の補佐に、周りの私たちや信者さんがついていくのが大変でした。

先代(初代教会長)は、神様の事となると何事も派

川でスベって山でコロんで…とってきました

Interview

第32回 鶴見教会 桜井信一先生



Q お金も大変でしょうが、近隣の方々や地域への配慮なども大変だったのではないですか。

信…源吾先生は、地域の議員などとうまくやっていたし、近隣や地域の方々には、普段から気遣いしてました。

手に、お金を惜しまずどんなにされました。お供え物でも、魚でもなんでもその店一番の物を買ってきてお供えされていました。

た。源吾先生が主に進めていました。当時は、どんどん進める源吾先生の補佐に、周りの私たちや信者さんがついていくのが大変でした。

先代(初代教会長)は、神様の事となると何事も派

Q 今ではなかなか出来ないことですね。信…今の時代、というのではなく、今の金光教には元気がないからね。鎌倉や銀座で集会しても、人が集まらない。各教会で我が事としてとらえず宣伝をしない。もっと活発に元気にすれば、周りも認知して、メディアに取り上げられたりして、結果布教になる。

私は平成21年に脳梗塞になり、紙一重で助けられ、今も生かされている。大したことともう出来ないかもしれないが、生かされている間は御用させて頂きたいと思っています。

○ありがとうございました。(今村則子)



○鎌倉散策(信徒部主催4月開催) に参加して

万緑の 大樹の寺を 巡り来て
 今日の日 命清まる

浄智寺とふ 山門くぐり 歩み行く
 濃紫の 十二単の清し

万緑の 大樹の下に 多(さ)わに咲く
 十二単に 黄蝶(きちょう)の舞えり

詠歌 熊坂和枝さん(平塚教会)

今回もまた、当日早朝の人身事故のため、ダイヤが大幅に乱れていた。しかし、つどいには支障がなく予定通り開くことができたのは、当たり前ではないと改めて感じさせてもらった。

さて、今回は生麦教会を会場に7教会24人の参加で貴重な時間を過ごさせていただいた。お話をして下さったお二人とも、ドキドキしているとか、私のような者が：などと謙遜されていたが、どうしてどうして、おかげをいただかれたことを熱く語って下さり、みんな聴き入っていた。

仲宗根三重子さんは、生麦教会にご縁をいただかれ結婚式も生麦教会で挙げられた。そのご主人は3人の子供さんを遺され52才の若さで急逝された。小さい頃から病弱だった三重子さんではあったが63才まで元気に働いていた。ところがその頃、後頭部に違和感を覚えるようになり検査をしたところ、髄膜腫であることが分かり、4時間に亘る手術をされたが、術後は順調で10日ほどで退院し、間もなく仕事にも復帰されるという信じられないほどの回復をされた。まだ取り切れていない部分もありながら、元気で大好きな接客の仕事に励まれておられ、ここまで導いてくれたあらゆることに感謝の日々だと言う。

鈴木道子さんは、熱心に信心していたお

信奉者集会報告

「女性のつどい」が開かれました

母さんの姿を見ながら育ち、2人のお子さんと5人のお孫さんに恵まれ、何不自由のない生活を送られていた。ところがご主人が80才の時、スキルス性の胃がんが見つかり、後10ヶ月の命と告げられる。しかも医者からは臨床試験に協力して欲しいと言われ、どうせ10ヶ月の命、後々、人のためになるならばと思つて承諾し、胃の全摘、その他胆のうなどの内臓も摘出するという大手術をされた。その間、道子さんは片時も離れることができず、食事もままならない生活が続いたが、その甲斐あって、ご主人は1ヶ月後に退院し、どんどん良くなつて、今では、出掛けることを楽しみに過ごされておられる。そして教会に行つて自分のことも頼んできてと言うようになり、道子さんは大いばりでお参りしているという10ヶ月の命が7年も生き、お墓も用意したが管理費ばかりがかさんで困ると笑い話のように話された。

お二人の身になつて考えるとご心痛

いばかりだったかと思うのだが、元気に明るく語られる姿に、みんな心打たれると共に、神様のお働きをひしひしと感じさせられたのだ。これからもそれぞれの教会が一層助かりの場となることを願いつつ、また、生麦教会の温かいおもてなしに感謝しつつ教会を後にした。

(吉岡裕子)

『教祖一三〇年記念集会』開かれる

去る7月7日(日)七夕の日、東京・銀座プロッサムを会場に、「教祖一三〇年記念集会『祈りを今に喜びを共に』」が、東京都教会連合会、首都圏フォーラム主催で開催された。

当日は、梅雨も明け猛暑となつたが、首都圏内から大勢の信奉者が会場に集い、教祖一三〇年を祝した。

午後一時開演、オープニングでは映像『時を超えて』が流され、教祖様にはじまる取次の働きが、今日まで歴代の金光様によつて現し伝えられていた姿が映し出された。

「教祖様が亡くなり、永世生き通しの取次の神となられてから百三十年。親神様の、すべての人が助かり、幸せになつて、世界が平和であつてほしいとの願いが、取次の働きを通して現され、伝えられて、私どもの手元に届けられて来た。『人を助けて神になれ』とのみ教えのままに、神を世に現して行こう。」と表明された。

続いて、第一部・記念講演となり、講師井手美知雄師(福岡県行橋教会)から「賜る」と題して、講話を頂いた。

講話の中では、教祖様のご理解や教会に持ち込まれた信徒の問題をとおして、講師がどう神様を伝え現わされたか、信徒が取次によつて助けられて行つたか、実例を出

祭式講習会開かれる

金光教学院を卒業以来、結婚をし教会家庭婦人として御用をされて居られる方、あるいは既に直接御用をされて居られる女性教師を対象にご本部へ依頼致しまして祭式講習会が開かれました。

六月十二日(水)、鶴見教会を会場に「ひいらぎの会」の主催(神奈川県山梨教会連合会)で、川上幸生先生(岡山県三石教会副会長・総務部人事室長・元金光教学院祭式講師)を講師にお招きして、椅子礼についての祭式講習会が開かれました。参加者は、ひいらぎの会九名、オーバードクター四名、男性教師見学六名でした。

開会のご祈念に引き続き、奥川副会長挨拶の後、講師紹介と日程説明が行われ、この度は椅子礼について講義・実習を行いました。



椅子礼は、本部広前祭場に於いて行われていた立礼での祭典に椅子を用いる必要性が出来てきたことから始まったもので、当初の祭典では、各行事の際には祭主以下すべて起立し、椅子が使われるのは行事の間だけでありました。その後、本部広前でも椅子礼で行われるようになったことから、各教会でも椅子礼で奉仕するところが増えていく。その中で、立礼をベースにしたものと座礼をベースにしたものなどそれぞれ独自の形で椅子礼が行われるようになったことから、基本とするところは、相手に対する尊敬の意と、動作の統一を目的として平成二十二年に『祭式教本』を改訂し椅子礼の基本作法が見直されました。今回は、その作法に基づいて講習が行われました。

こうした、基本的なお話を聞かせて頂き、実際の正立の姿勢、着椅の姿勢、自席の離就、神前着離席、敬礼作法、賛者の作法等を共に行い、更には四人ずつ二チームに分かれてミニ月例祭を行い、祭主、後取、賛者の作法を確認しました。質問も次々と出され、参加者同志交流も深め、予定時間をオーバーする有意義な講習会となりました。開会で福田連合会長の挨拶があり祭式講習会を終了しました。参加者からは、「改めて、基本動作、一つひとつの動きについて教えて頂き、有意義だった」等の声がありました。(横山光雄)



して、分り易く、面白く、お話し下された。また、家族の問題について話され、子供に接する中で、その子に現れた神様を自らがどう頂いているか、についてもお話し下さり、講話をとおして、改めて「神様の思い」「神様の願い」「信心して助かる」と「取次とは何か」等について、考えさせられ、自らの信心が問われた講話であった。第二部では、「深海さとみ生田流箏曲宮城会」による箏曲の演奏が披露された。演奏者には深海さとみ氏の長女や長男も加わり、五名によって「春の海」「砧三章」「松竹梅」の曲目が演奏され、箏や尺八の音色に日本古来の楽器の素晴らしさを実感させられた。十七弦の箏があることさえ知らなかった私にとつて、今回の演奏は興味深く、奏でる素晴らしい音色に魅了された。

続いてフイナーレに入り、この度新たに組織された金光教祖一三〇年記念首都圏合唱団により歌が披露され、また皆で金光大神賛歌「新しいのち」を合唱した。(P4)

その後、「七夕に寄せて・劇と歌でつづるみんなの願い『ぼくたちみんなのトウモロコシ』」と題する子供劇が披露された。子供達が演ずるその一つ一つに、考えさせられ、笑いありで、一生懸命に演ずる子供達の姿に感動した。

次に、七夕にふさわしく各教会から送られた祈りの短冊が竹につけられ、短冊に書かれた願いが、一部紹介された。

そして、最後に箏の音も入り、皆で「故郷」を合唱して、記念集会の幕を閉じた。

(南 清 孝)

○教祖 130 年教師信徒研修会

のお知らせ

映画を通して宗教を考える

「となりのトトロ」などに見る

日本の神様と金光教

日時 8月31日(土) 13:30～16:00

会場 金光教鶴見教会

講師 櫻井智行先生(鶴見教会)

申込 8月10日までに教会毎にまとめて申し込みハガキでお願いします。

その他 研修会後懇親会を予定しています。そちらにもご一緒参加下さい。

○新任教師紹介

「変わるか変われないかは自分次第」

神奈川教会 福田俊介

私は、金光教神奈川教会在籍の福田俊介と申します。昨年五月十四日に金光教学院に入学させて頂き、今年四月十五日に無事卒業させて頂き、六月一日付で教師にならせて頂き、六月九日の教団独立記念祭で辞令を頂きました。昨年度は、本科生四十二名、特科生四名、本部研修生三名の計四十九名と共に日々の修行に取り組み、学院長先生をはじめ学院の先生方、本部職員の方からご指導を受けておりました。私は、学院という特殊な環境の中で「お育てを頂いたなあ」ということがありました。

夏の在籍教会実習中に、教区の青年教師会との懇談会があり、東京センターへ向かいました。センターに到着して三階へ上がり、部屋に入ると軽くあいさつした時に、「あれ？」としたような目で見られて、「変わった」と言われました。私自身あまり自覚はないのですが、冬の在籍教会実習中そして学院卒業後と会う人会う人に「変わったね」と言われ続け、正直、うんざりしています。ある先生から「学院は喋らない人間を喋らせた」と言われ、学院という所は人を成長させる力があると感じました。

「学院で学ぶのは基礎の基礎なのでしっかり学んで頂いて、教会に戻られても、学院で学んだことを忘れずにしっかり御用して頂きたい」と卒業式の後に学院次長からお話がありました。私は、教会での御用を通して、教師信徒の方からお育て頂きたいと思っております。

『父との時間』

川崎教会 五十嵐昭子

私は幼い時、父と出掛ける機会もなく、姉達より父と一緒に過ごす時間がありませんでした。

三年前に父に肝ガンが見つかり、往診のお医者様が来て下さったり、床屋さんの付き添いなど、毎週木曜日は父の日と決めて実家へ行かせて頂きました。総合病院では、胃力メラ検査を受け六時間程待つことも多々あり、病院が嫌いな父でしたので、初めは、今日ほどのようにして行ってもらえるのでしょうか…と神様をお願い致しました。徐々に父から、検査へ行く日には「行つて来るね」と留守番をする母へ言葉をかけてようになり、病院でも待つことが出来るようになっていきました。

病院までの道のり、道端にお花が咲いていましたら、立ち止まっているとお花の名前を覚えて知りました。

父はこの三年間、病気と向き合うことができ、父を支えて下さった方々に感謝いたします。

父と心が通じ、私が幼い時に過ごせなかった時間を神様が下さったのだと勝手に思っております。神様に御礼申し上げます。

金光教神奈川山梨教会連合会

発行者 福田 光 一

横浜市神奈川区青木町六一二十五

〒 221-0057 金光教神奈川教会内